

## 那覇市療育センターの医療・保健・療育の連携 について

沖縄小児発達センター 落合靖男

### 1 はじめに

母子通園事業である那覇市中心身障害児療育センターは保母以外に理学療法士、言語療法士、心理判定員等を常勤とし那覇市の心身障害児の療育を果たしてきた。この10年間の実績をふまえて医療、保健、療育の中心的役割、連携のあり方について検討したので報告する。

### 2 那覇市療育センター

那覇市療育センターは那覇市民(307,911人)のための母子通園事業で1983年に設置された。

#### イ) 職員構成

療育係長(園長)1人、主事1人、心理判定員1人、言語治療士1人、理学療法士1人、保母3人の計8名

#### ロ) 歳入・歳出

歳入は心身障害児通園事業として約600万円、市の歳出は50,281,000円(人件費45,712,000円、事業費13,409,000円)

#### ハ) 相談件数・内容

外来内容を調べたのが表1である。毎年140名前後の乳幼児が受診し、相談内容も精神発達遅滞(主にMR)、肢体不自由児(主にCP)、言葉の遅れが主である。

#### ニ) 年令別状況 (表2)

受診者状況を示したのが表2である。原則として未就学児のみを受診者に行っているため6歳以下の者が受診しており、そのうち3歳以下は7.4%を占めている。

#### ホ) 紹介元

平成3年度(123件)の紹介元を調べたところ、中央保健所から58%、病院等24%市民健康課5%、その他(自発来所)13%であった。

#### ヘ) 退園後の進路状況(表3)

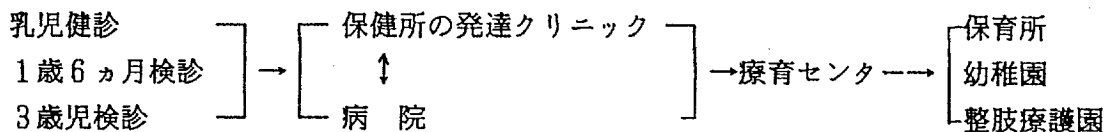
退園後の進路状況を調べたのが表3である。大部分は3歳以降の障害児保育へ移行したり、普通保育所、幼稚園へ進級している。

### 3 考察

前年日暮班では心身障害児の医療、保健、療育の理想的体系として地域単位に療育センターを中心に病院、保健所、保育所、福祉関係が有機的連携をとる必要があることを提言した。そのモデルには近い型で那覇市がこの10年間心身障害児の療育に

携わってきたのでここに報告する。

那覇市は人口30万人の都市で、市内に中央保健所、県立那覇病院、市立病院、整肢療護園があり年間の出生人口は約5千弱である。乳幼児健診システムは3ヵ月～6ヵ月7ヵ月～1歳、1歳6ヵ月、3歳児に公的な健診があり、そこでの発達遅滞児（運動・精神）はほとんどすべて中央保健所に紹介され、そこで小児神経医が事後指導としての二次スクリーニングを行ない、さらに訓練指導の必要な乳幼児（MR、CP等）は那覇市療育センターで訓練を実施している。又、病院で出生して経観の児も直接療育センターに紹介されることになっている。3歳以後には、障害保育へ移行もスムーズに行われ心身障害児がこのシステムからはずれる児はほとんどみられない。



那覇市療育センターは母子通園事業であり、一般には保母しか配置されていない所がほとんどであるが、那覇市は理学療法士、言語療法士、心理判定員も常勤であり、又嘱託医も3名（小児科・小児神経科・精神科）いて多くの心身障害児のニーズに答えられるようになっている。他の市町村にも母子通園施設は設置されているが、保母のみの常勤のため、訓練その他に対応できない都合もあり、システムづくりの中心になるには母子通園施設に理学療法士、言語療法士、心理判定員が必要と思われる。

那覇市療育センターは医療施設を併設していないが、嘱託医、地元との病院の連携で医療的ケアも補える状態にある。

さらに那覇市には心身障害児の全体を統轄する。那覇市障害児等早期療育委員会が療育センターの諮問機関となり関係機関の有機的連携をはかっている。

#### まとめ

- 1) 那覇市における母子通園施設、保健所、病院、保育所等の有機的連携について報告した。
- 2) 母子通園施設が療育センター的役割を果たすには理学療法士、言語療法士、心理判定員が必要である。
- 3) 保健所内に乳幼児健診の事後指導としての発達クリニックが必要である。
- 4) 市町村単位に心身障害児の検討をする心身障害児運営委員会の設置が必要である。

表 1 内容別状況（一般外来相談）

	精神発達 遅滞	ダウン症	ことばの 遅れ	肢 体 不自由	情緒障害	重度心身 障 害	病弱身体 障 害	視聴覚 障 害	その他	計
S57	40人	人	51人	25人	3人	2人	2人	5人	11人	139人
S58	29		66	3	4	0	0	5	38	145
S59	28		65	6	2	3	1	3	39	147
S60	24		64	5		1		3	59	156
S61	19		64	17	1			2	50	153
S62	14	4	61	11				1	57	148
S63	8	6	52	7				1	34	108
H 1	10	2	68	16				1	35	132
H 2	8	9	70	22				1	27	137
H 3	10	8	77	15					13	123
計	190	29	638	127	10	6	3	22	363	1,388

表 2 年齢別状況（一般外来相談）

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	計
S57	7人	33人	23人	37人	20人	14人	5人	139人
S58	26	15	37	41	20	3	3	145
S59	12	19	38	45	25	7	1	147
S60	33	25	43	31	10	10	4	156
S61	26	27	31	34	22	11	2	153
S62	24	23	28	41	20	10	2	148
S63	14	9	13	53	8	9	2	108
H 1	13	24	15	41	23	14	2	132
H 2	16	12	27	41	22	18	1	137
H 3	7	19	22	37	25	12	1	123
計	178	206	277	401	195	108	23	1388

表3 退園後の進路状況（途中退園も含む）

	障害児保育	保 育 所 幼 稚 園	養護学校	幼稚園・ひ まわり学級	幼 稚 園	盲・聾・養 護学校幼稚 部	肢体不自由 児 施 設	そ の 他	計
S57	12人	2人	3人	4人	10人	1人	4人	7人	34人
S58	12	9	1	1				6	29
S59	22	8		1		2	7	6	46
S60	21	7		2			2	6	38
S61	17	8	0	0	0	0	2	8	35
S62	15	8	0	2	0	0	3	7	35
S63	17	5	0	0	1	0	4	0	27
H 1	19	8	0	0	0	0	1	13	41
H 2	14	4	1	0	0	0	0	10	29
H 3	15	4	1	2		1	4	6	33
計	164	63	6	12	2	4	27	69	347



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 はじめに

母子通園事業である那覇市心身障害児療育センターは保母以外に理学療法士、言語療法士、心理判定員等を常勤とし那覇市の心身障害児の療育を果たしてきた。この 10 年間の実績をふまえて医療、保健、療育の中心的役割、連携のあり方について検討したので報告する。